

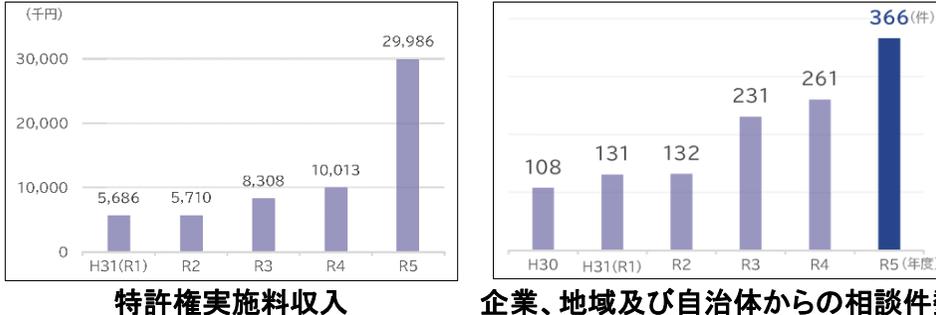
大学名 佐賀大学

表題 基礎研究から社会実装まで～All-rounder型URAを目指した人材育成戦略～

佐賀大学のURA <https://www.suric.saga-u.ac.jp/>

佐賀大学では2019年に研究戦略・推進や産学連携の支援等を目的にリージョナル・イノベーションセンターを設置し、現在(2024年7月)5名のURA(シニアURA2名、主任URA1名、URA2名)が、教員約600名の研究支援を 案件に応じて担当している。研究支援では、科研費その他の競争的資金の獲得支援を、産学連携では民間企業等との共同/受託研究の増加、技術移転等による研究成果の実用化に注力している。

下図に直近5年間の「特許権実施料収入」及び「企業、地域及び自治体からの相談件数」の推移を示す。



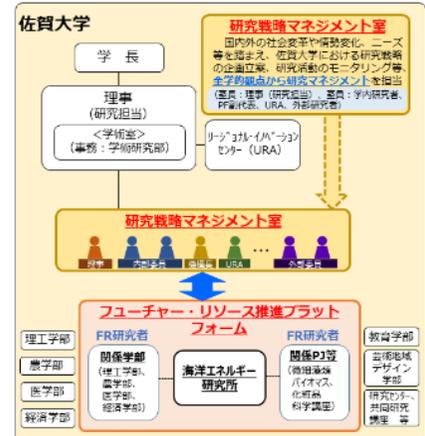
All-rounder型URAの利点と育成戦略

大学の研究関連業務が多様化する中、URAには基礎研究から 研究成果の社会実装まで長期の一貫した伴走支援が必要とされており、そのような支援に対応できるAll-rounder型URAの育成を実施している。研究者の専門分野や研究テーマ・フェーズ等に到る情報を適切に把握し、俯瞰的な支援を実施し、研究者との安定した信頼関係を構築するものである。

URAによる特定大型支援プロジェクトの事例 (1)フューチャー・リソース(FR)推進プラットフォーム

地球規模の課題解決に向けて、「現在は未利用でも転換技術の革新的研究開発によって活用可能な資源・エネルギー」をFRと定義し、海洋エネルギー研究所を核として令和5年度に設置された。

海洋温度差発電、洋上風力発電、藻類・バイオマスの利活用を中心に全学的な研究開発が展開中で、運営を担う研究戦略マネジメント室にはシニアURA1名が専任で配置され、一貫した支援を実施している。



FR推進プラットフォームの推進体制

(2)シンクロトロン光応用研究センター

佐賀県立九州シンクロトロン光研究センターの中に本学専用のビームラインを設置し、シンクロトロン光を利用した材料開発や物質の構造解析等の研究が展開中である。

シニアURA1名が担当として配置され、ビームラインの利用促進や、学際的融合研究の創出を中心に、一貫した支援を実施している。



写真(左): 海洋温度差発電の研究施設 (沖縄県・久米島)
写真(右): 佐賀大学専用ビームライン (佐賀県・鳥栖市)